

<過去1週間の動き>

(8月3日～8月9日)

USD/TRY: 8.2950～8.6700

TRY/JPY: 12.70～13.14 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、予想以上の下落。6日以降のリラ安には、米雇用統計上振れなどを受けたドル高の側面もあったはずだが、対ユーロ、対円などの値動きを振り返ると、リラ安は週を通してほぼ一貫していたと言える。3日発表されたトルコ7月CPIは、前年比+18.95%と、市場予想を明確に上振れた。29日発表されたトルコ中銀インフレ予想の上方修正(注1)が、早期利下げ懸念の払拭という読みでリラ押し上げに寄与した経緯に鑑みると、足元物価上振れも、或いはリラ押し上げ要因と読まれる可能性も考えられなくはなかった。実際、同指数発表直後、リラは買い上げられ、対ドルで8.2950、対円で13.14と、この間の高値をつけた。しかし、程なく、リラは急反落。その後、現在に至るまでほぼ一方的な下落が続いている。6日の期待インフレ率の減速には、些かの違和感も抱いたが、前後してのリラ続落を煽ったのは、エルドアン大統領の発言。同大統領は、4日の現地時間夜、「物価は金利と共に減速する」との持論を繰り返した。12日のトルコ中銀金融政策委員会に向け、市場参加者の予想は、引き続き「政策金利据え置き」で固まっているものの、リラの動揺は、少なからず、市場が利下げ強行の可能性を警戒していることの反映であろう。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/3	7:00	CPI(前年比)	7月	+18.95%	+18.60%	+17.53%
8/6	7:00	期待インフレ率(12ヵ月)	8月	+12.48%		+12.62%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(8月10日～8月16日)

USD/TRY: 8.550～8.850

TRY/JPY: 12.50～12.85

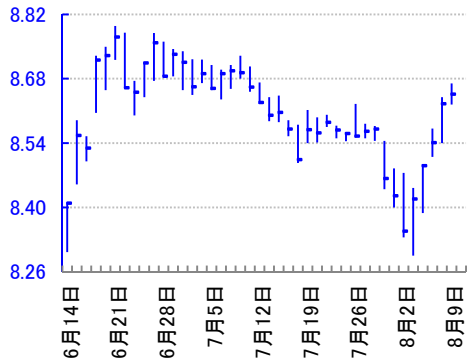
向こう1週間のトルコ・リラ相場は、続落を予想。7月CPIの上振れは、食品価格、燃料価格の高騰を背景としたが、足元コアCPI、PPIの動向(注2)は、物価の落ち着きがまだ遠い可能性を示唆する。実質(政策)金利がマイナスに落ち込む可能性(注3)も目先払拭できない。物価が前年比で前月のそれを下回るには、前月比で、昨年同月の同伸び率を下回る必要がある。昨年8月、9月の物価は、それぞれ前月比+0.86%、同+0.97%だったが、年初来、前月比の物価は平均+1.43%で推移してきており、とても楽観はできない。前月比物価は、昨年10月、11月に、+2.13%、+2.30%と大きく上振れており、前年比で物価の頭打ちが確認できるのは、早くても(10月CPIが発表される)11月以降になる公算が高い。問題は、仮に今週利下げを見送ったとしても、11月まで、トルコ中銀、カプジュオール総裁が、大統領からの利下げ圧力に耐え、かつ総裁の座を維持できるのか? という点にあり。同総裁自身、就任前には、大統領の上述主張に同調しており、アーバル前総裁の利上げを批判していたから、「万が一」という可能性も除外はできない。また、大統領の目に、総裁就任前と就任後で、同総裁が「主張を変えた」ように映るとしても、不思議ではないだろう。漸く沈静化しつつある山火事の影響も、主に二つの経路で気掛かり。ひとつには、山火事と早魃とは地球温暖化の文脈で同根と言えるが、山火事は、その直接の被害だけでなく、早魃が与え得る生鮮食品物価押し上げ圧力の深刻さも物語る。もうひとつは、同国の観光収入=外貨収入に与える直接の打撃。同国の観光業に大打撃を与えた新型コロナ禍も、まだ収束には程遠いはずだが、各地で配信された、山火事で焼け出され、滞在先からの避難を余儀なくされた観光客の映像などは、残念ながら、既に困難な状況を一段と困難にするであろう。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/10	7:00	失業率	6月			13.2%
8/12	7:00	鉱工業生産(前年比)	6月		+21.7%	+40.7%
	7:00	小売売上高(前年比)	6月			+27.0%
	11:00	1週間物レボ金利			19.00%	19.00%
8/13	7:00	経常収支(USD)	6月		-1.15bn	-3.08bn
8/16	8:00	財政収支(TRY)	7月			-25.0bn

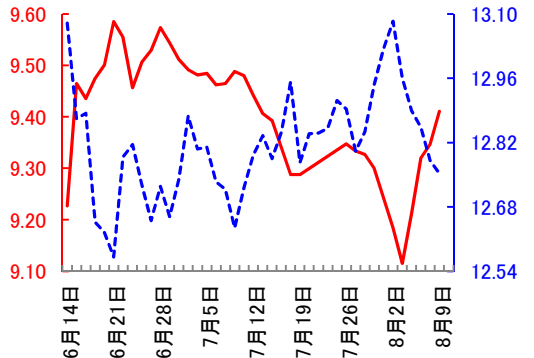
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)



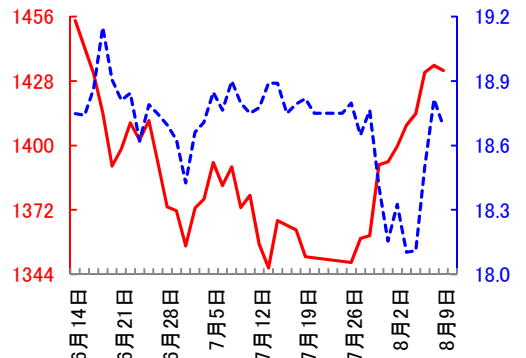
バスケット/リラの推移(トルコ中銀公示)

リラ/円の推移(ロンドン 17:00)



株式市場の推移(ISE 100種指数)

長期金利の推移(5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		19.00%
成長率(GDP/前年比)	Q1	+7.0%
失業率	5月	13.2%
消費者物価(前年比)	7月	+18.95%
鉱工業生産(前年比)	5月	+40.7%
小売売上高(前年比)	5月	+27.0%
貿易収支(USD)	6月	-2.85bn
経常収支(USD)	5月	-3.08bn

(注1) 2021年末のCPI予想を、4月予想の+12.2%から+14.1%に引き上げた

(注2) 7月PPIは前年比+42.89%から同+44.92%に上伸、7月CPIコアB指数も同+18.16%から同+18.51%に上伸

(注3) この場合、物価が政策金利を上回る可能性

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。